

なぜブルーベリー農家は東京に多いのか？

「ドラゴン桜」式

クイズで学ぶ

東大思考



駿台予備学校地理科講師

宇野仙

企画 現役東大生 西岡吉誠

クイズで  
東大思考が  
身につく!

東大 ×  
ドラゴン桜

で楽しく思考力が高まる脳カトレーニング!



「ドラゴン桜」式クイズで学ぶ東大思考

なぜブルーベリー農家は東京に多いのか？

宇野仙

企画 西岡孝誠

星海社

258



SEIKAISHA  
SHINSHO



突然の質問で恐縮ですが、みなさんは日常生活を過ごしている中で、何かに対して「なんでだろう?」と疑問に感じることはありますか? 例えば、駅から家に戻る帰り道で、みなさんはどれくらいのことを疑問に思い、「これってどうしてなんだろう?」と理由を考えて、答えを考える習慣を持っていますか?

私はもう20年近く、予備校講師として東大受験生を指導してきました。地理講師として、何百人という受験生を東大に送り込んできた自負があります。

その中で、常々「東大に合格できる受験生には、どのような共通点があるのか」を考えています。

その一つの答えが、この「身近な疑問を考える習慣」なのです。

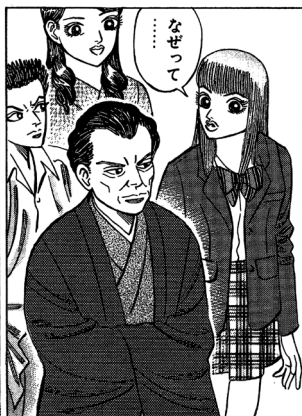
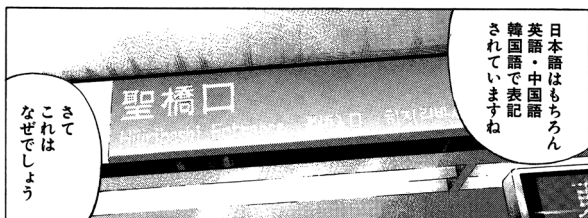
日常生活の中で、「なんでだろう?」と考えることが多い人ほど、成績が上がります。東大に合格しやすく、社会でも活躍できるのではないかと、思うのです。

もつと具体的に言えば、「なんでだろう?」という問いを問いのまままで終わらせず、そこから仮説を立てて検証し、理由を突きとめるといふ一連の思考をマメに行う習慣こそが、「頭がいい人」の能力を作っているのではないかと思うのです。日常生活の中の「なんでだろう?」という疑問の質と量が、頭のいい人とそうでない人を切り分けているように感じています。

人間、生きていけば、普通に生活しているだけでも疑問に感じることや、不思議に思うことはたくさん出てくるはずだと思います。しかし、多くの人は、湧き上がる「なんでだろう?」を無視してしまいます。せつかく「なぜ?」と思っても、次の瞬間には、「そんなこと考えても仕方ない、何の意味もない」と思考停止してしまう経験、誰もが身に覚えがあるのではないのでしょうか。しかし、そんな風に考えてしまっている人は、頭をよくする機会を逃してしまっているかもしれないのです。

例えば、偏差値35から東大を目指す漫画「ドラゴン桜」では、東大を目指す矢島勇介と水野直美に対して、先生がこのように話しかけるシーンがあります。

「だからあなたはバカなのだ!」









どうでもいい  
じゃん！  
駅の案内表示に  
外国語があろうと  
なかろうと！

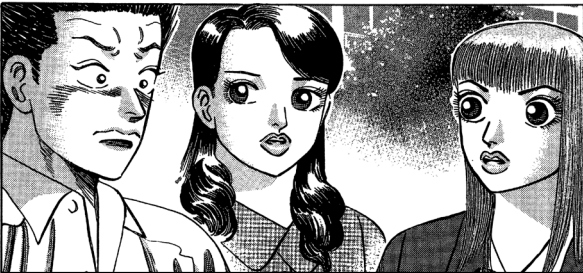
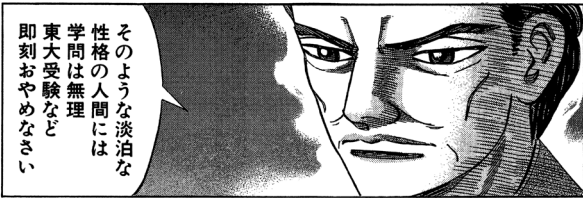
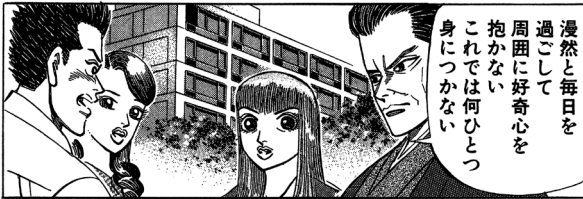
さっきから  
いちいち  
なぜとか  
どうしてとか  
……

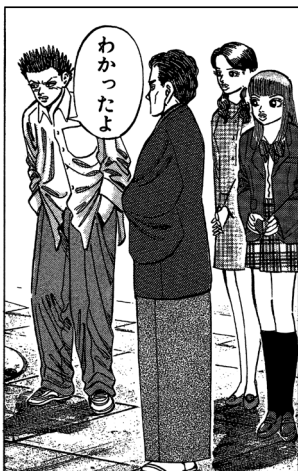
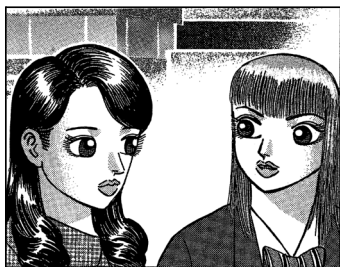


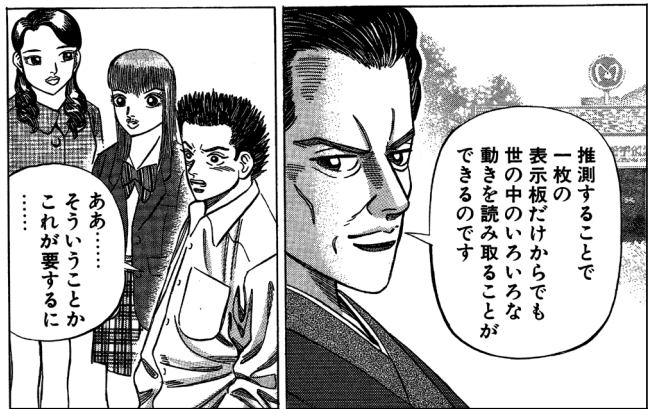
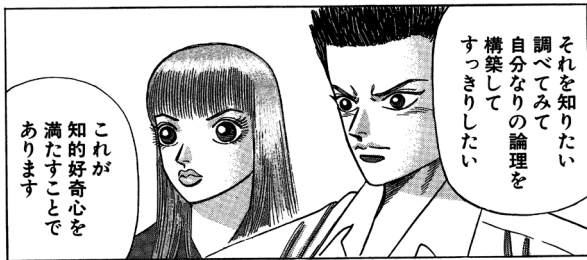
矢島君

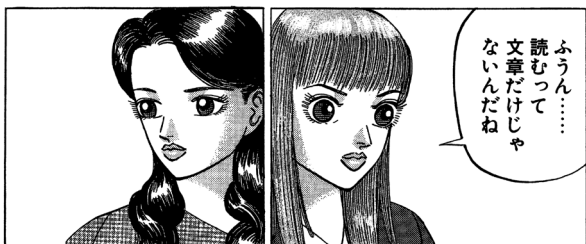
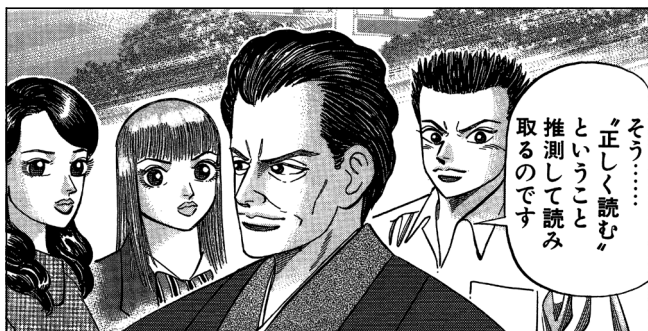


だから  
あなたは  
バカなのだ！











なぜ  
日本の車は  
左側通行  
なのか

すると  
社会には様々な  
疑問があります

景気が良くなったり  
悪くなったり  
するのはなぜか

品物を売買して  
利益を生む仕組みは  
どうなっているのか

このように  
世の中には  
たくさんのがなぜか  
あふれている

しつこく問われてキレた矢島に、先生が投げかける言葉は強烈ですね。ですがその実、的を射ていると思います。

「なんでだろう？」と考えるのが面倒になった瞬間、人間は確実に、頭が悪くなっているてしまうのです。

例えば、テレビでニュースを見ているとき。「物価が値上がりして家計の負担が増加」とニュースキャスターが言っているのを見て、「そうなんだ、それは大変だな」としか考えないようだと、頭はよくなりません。情報をそのまま受け入れているだけでは、なぜそんなことが起こっているかという理由もわからず、これからその傾向が続くのかという未来の予測も、まるつきりつかなくなってしまう。

「物価が値上がりしているのは、なにが原因なんだろう？」と考え、その原因に対して仮説を立てて、その仮説を検証していく、そういうアカデミックな考え方を持つことが頭をよくするために必要なのです。

頭をよくする材料はニュースだけでなく、街中にも転がっています。

街を歩いているときに「なんで日本は、車は左側通行なのに歩行者は右側通行なんだろう

う？ 他の国ではどうなっているんだらう？」とか、「この自販機は誰が所有しているものなんだらう？ どんな仕組みでこの自販機は収益が出ているんだらう？」とか、「わりと近い距離に同じチェーンのコンビニがあるけれど、なぜこんな近い距離に2つもお店を出しているんだらう？」とか、そんな風に無限に疑問は湧いてくるはずなのです。

ここで少くない人は、そんな疑問が生まれても「まあ、どうでもいいか」と思考停止して流してしまい、頭をよくする機会をみすみす逃してしまいます。

一方で、東大に合格するほどの思考力を持つている人は、この「なんでだろう？」を深掘りする能力が高い人たちなのです。みな、日々の生活の中で多くのことを疑問に思い、その疑問に対する解答を出そうとする習慣がついているから、東大に合格している場合が多いのです。

その証拠、というわけではないですが、東大の入試問題は、日常の「なんでだろう？」を問う問題が非常に多いです。

特に私が指導している地理は、そうした問いの宝庫です。



- この時刻表が日本のどの地点のものか答えなさい
- かぼちゃはなぜ、ニュージーランドとメキシコからの輸入が多いのか答えなさい
- 東京にブルーベリー農家が多い理由を考えて答えなさい

このように、普段の生活の疑問に立脚した入試問題が数多く出題されているのです。東大は、こうした日常生活に立脚した疑問を考える学生を求めていると言えるのではないのでしょうか。

でもこうした日常生活の疑問を、自分だけで考えるのは難しいですよ。

実はこのような疑問を考えるのに効果的な「型」があります。こういうアプローチをしていけば、こうやって頭を使えば答えに近付くことができる、という考え方が明確に存在しているのです。

それをマスターしていただくために本書では、身近な疑問から東大入試レベルのものまで問いを25個、用意しました。どれも考えれば考えるほど面白く、そして考える過程で頭がよくなるものばかりです。

誤解しないでいただきたいのは、その問いの「答え」をみなさんに暗記してもらいたいわけではないということです。問いの中には明確な答えがないものも存在しますし、私が例示している以外の答えが存在するものもあります。

本書のおすすめの読み方は、「答えの考え方」を一緒に探していくというものです。あくまでも目的は、みなさんに「身近な問いに対してどう考えていくか」という型を習得していただくことにあります。

そして、みなさんが自分で気になる問いを見つけて、考えられるようになれば、きっとそのときは本当に「勉強だけが楽しい」と思えることでしょう。

今まで机の上での勉強だけが学びだと思っていた人も多いかもしれませんが、そうではないのです。目を開いている時間のすべてが学びであり、そして学びとは遊びなのだと感じできるようにする、そんな体験を、この本を通してみなさんに獲得してもらえたら、こんなに嬉しいことはありません。

では早速、  
例題にチャレンジして  
みましょう！





# Q1

例題  
なぜ英語の発音  
は難しいのか？

まずは例題、「英語の発音が難しい理由」を考えていきましょう。

今では小学校から学ぶ英語ですが、みなさんは英語の発音が難しいと感じたことはありませんか？ 「tomato」がローマ字読み「トマト」じゃなくて「トメイトウ」になって、「money」が「マネー」じゃなくて「マネー」になっていきますよね。「tough」は「タフ」と発音しますが、「g」が入っているにもかかわらずgの音をほとんど発音せず、gは「f」という、スペルと全く異なる発音になります。

英語の発音はスペルをそのまま読んでも正解とは限らず、複雑で難しいですよ。日本語だと漢字の読み方こそ複数あるものの、ひらがなやカタカナで表記されれば発音の仕方がシンプルで簡単なのと対照的です。

英語を勉強するとき、日本人なら一度はこの発音の難しさに悩まされるのではないのでしょうか。

しかし、「英語の発音は難しいもの」と受け入れてしまうのではなく、その理由を考えてみると面白いことがわかります。

では問題です。なんで英語って、発音がこんなに複雑なんですか？

# 紐解くためのアイデア

こういう問いに向き合うときには、例えば次のように、いろいろな考え方をすることができます。

- ① その問いに出てくる内容をしっかりと調べてみる
- ② 問いを考えるために、言葉を分解したり深掘りしたりする
- ③ 主観的な言葉を客観的なデータに直したり、言い換えてみる

この本では、これらの考え方を「紐解くためのアイデア」としてそれぞれの問いで実践していきます。

# ① その問いに出てくる内容を しっかりと調べてみる

まずは、問いのテーマについて調査してみましょう。

例えば、「英語ってそもそもいつ頃に成立したもののなんだろう?」「英語以外の言語と比べたときに、どんな特徴があるんだろう?」などとアイデアを出してみよう。歴史を調べたり、他と比較した特徴を調べてみると、見えてくるものがある場合があります。

- 全世界で使われている言語である
- イギリスを中心に成立し、その植民地などで公用語となっている
- アルファベットで作られている
- 英語はラテン語と同じくインドヨーロッパ語族に属するゲルマン語派の一つの

言語で、類似点が多い

という感じでしょうか。

## ② 問いを考えるために、言葉を分解したり深掘りしたりする

次に、問題文の要素を分解してみましょう。

「なぜ英語の発音は難しいのか？」

という文章は、「英語」の問題と「発音」の問題に分けることができますね。そして英語の特徴については先ほど調査できたので、次は「発音」を分解してみましょう。発音とはどういうものでしょうか。調べてみると、単語や言語を言うときの母音



や子音のことだとわかります。口の中をいろいろな形にして、「あ」と言ってみたり「う」と言ってみたり、言い方を変える行為、と解釈できます。

つまりは、口の形で母音や子音を使い分ける行為なわけですね。

### ③ 主観的な言葉を客観的なデータに直したり、言い換えてみる

「主観」から「客観」への言い換えも効果があります。例えば、「英語の発音は難しい」というのは、ただの個人の意見でしかありません。「難しい」と感じている人が1000人中1000人なら話は違いますが、必ずしもそう言い切れることはできません。だから、これを客観的な事実に変更する必要があります。

例えば、「仲がいい」というのは主観的ですが、「1日に3時間会話する仲だ」というのは客観的ですよね。このように、具体的な数字やデータを用いたりしながら、客観的な内容にしていくと、物事を考えやすくなります。

例えば今回の「英語の発音は難しい」は、「英語の発音は日本語に比べて多様だ」と言い換えられるかもしれませんが。「英語は発音のパターンが多い」なんて具合でも大丈夫でしょう。

こうやって考えてみると、英語は発音が難しいと言うときの比較対象は「日本語」なんですよね。フランス語やロシア語だって発音が難しいので、フランス人やロシア人は別に「英語は発音が難しい」とは感じていない、なんて話もあります。つまりは、「日本人にとって」英語は発音のパターンが多いように感じられるということなのです。

どうでしょう？　ここまで考えると、ちょっと見えてくるものがありませんか？

## 解説

まず考えられるのは、英語はヨーロッパの言語であり、日本人である我々の言語

とは違うということですよ。

極端な話、日本語と英語が全然違うから、日本人は英語の発音が難しいと感じてしまう、という話なのです。

先ほど確認しましたが、発音というのは、口の中を動かして、舌を移動させたりして行うものです。

ヨーロッパの人の言語、例えばフランス語やイタリア語では、英語と同じような発音があつたりします。これは、元々の源流がラテン語という同じ言語からきているからだと言えるでしょう。ヨーロッパの人が英語の勉強をするときには、「ああ、これは自分たちの言語と似ている発音だな」と感じられるはずなのです。

もっと深く考えてみましょう。日本語と英語では、何が一番異なると思えますか？ 先ほど、英語の特徴として調べた結果の一つがアルファベットでしたね。アルファベットは、AからZまでの26文字で構成されています。

それに対し、日本語はどうでしょうか。「あいうえお」から「わをん」、ひらがなだけで48文字もあります。カタカナもあるので96文字、もっといえば漢字もある

のでそれ以上にいろんな文字があります。

日本語が96文字の中から組み合わせさせて言葉を作っているのに対して、英語は26文字しかないのです。そして26文字で言葉を作るとなると、発音で違いを作るしかありませんよね。

例えば日本語では「読む」の過去形は「読んだ」ですが、英語では現在形「read」<sup>リード</sup>に対して過去形「read」<sup>レッド</sup>となります。同じ文字を、発音を変えることで区別しているのです。

日本語は96文字もあるので発音を文字通り読めばいいわけですが、文字が26個しかないといっぱい発音を作る必要があったわけですね。

このように、日本語と英語の違いを考えることで問いに対する答えが見えてくるわけです。この答えにたどり着くためには、先ほどの「調べる」「分解する」「言い換える」というような過程が必要不可欠なわけです。



## 解答例

日本語に比べて英語は文字数が少ないため、発音でそれぞれの単語を区別する必要があったから。

いかがでしょうか？  
このような思考トレーニングを通して、ぜひ自分で考える力を養ってみてください！

Q 1 例題 なぜ英語の発音は難しいのか？ 18

第 1 章 日本各地の不思議

33

Q 2 なぜブルーベリー農家は東京に多いのか？ 34

Q 3 なぜ任天堂の本社は京都にあるのか？ 42

Q 4 なぜ関東地方は人口が多いのか？ 50

Q 5 なぜ福岡市は日本で一番人気の街なのか？ 58

Q 6 なぜ「たこ焼き」は大阪発祥なのか？ 68

第 2 章

# 世界の不思議

77

Q 7 なぜサッカーやラグビーなど、様々なスポーツはイギリス発祥なのか？ 78

Q 8 なぜアメリカ人よりアラブの方が肥満の人の割合が高いのか？ 86

Q 9 なぜインドカレーは米ではなくナンと食べるのか？ 94

第 3 章

# 日本語の不思議

103

Q 10 なぜ日本人は緑色のものを「青」と呼ぶのか？ 104

Q 11 なぜ「不甲斐ない」という言葉は二重否定なのにプラスの意味ではないのか？ 112

Q 12 なぜ鬼怒川はこんなに恐ろしい名前を付けられているのか？ 118

第4章

# 日本文化の不思議

125

Q 13 なぜ日本人は食文化をとことん追求するのか？ 126

Q 14 なぜゴジラは東京タワーを壊すのか？ 136

Q 15 なぜ日本だけで駄菓子文化が栄えたのか？ 146

Q 16 なぜ日本は礼節を重んじる国なのか？ 164

第5章

# 自然現象や数字の不思議

177

Q 17 なぜ山の天気は変わりやすいのか？ 178

Q 18 なぜ12という数字は多くの場所で使われ、13は不吉な数なのか？ 186

Q 19 なぜ夕焼けは晴れ、朝焼けは雨なのか？ 194



第  
**6**  
章  
**統計の不思議**

211

**Q 20** なぜ鉛は生産された量の2・2倍も消費されているのか？ 212

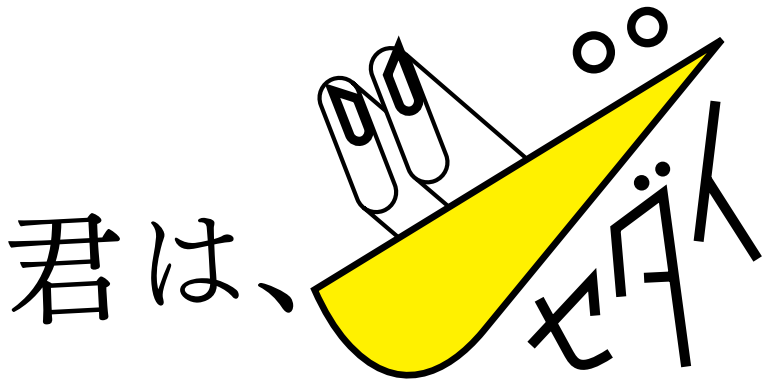
**Q 21** なぜ風力発電は青森と北海道で盛んなのか？ 218

**Q 22** なぜ新宿駅は世界一多くの人が使っているのか？ 226

**Q 23** なぜ香港人には日本旅行のリピーターが多いのか？ 236

**Q 24** なぜ人間の身長は時代によって伸びたり縮んだりするのか？ 246

**Q 25** なぜ日本はかぼちゃをニュージーランドとメキシコから輸入しているのか？ 254



# 何と闘うか？ <https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

## メインコンテンツ **ジセダイイベント**

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

## **ジセダイ総研**

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

## **星海社新書試し読み**

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

# 行動せよ!!!